

第3学期始業式 式辞

皆さん、新年、明けましておめでとうございます。本県太宰府ゆかりの「令和」と改元されて初めての、そして暖かく穏やかな新年を迎えました。

今年と言うまでもなく4年に一度のオリンピックイヤー、東京オリンピック・パラリンピック開催の年であります。わが国がオリンピックに初めて、昨年のNHK大河ドラマの主人公 金栗 四三 氏を含む2名の選手団を派遣したのが、明治45年(1912年)の第5回ストックホルム大会です。この明治45年はわが山門高校の開校の年ですから、山門高校はオリンピックでのわが国の飛躍とともに歩みを進めてきたと考えることもできます。そのような意味から、オリンピック開催の今年、自分自身、そして山門高校を大きく前進させる年にしていこうではありませんか。



まずは目の前のことから。3年生はいよいよセンター試験が10日後に迫っています。早いですね。

私事で恐縮ですが、私は校長になってから、年が明けるとセンター試験を前にカツ丼などを食べて、ささやか過ぎる“験担ぎ”をしてきました。これまでにカツ丼、カツカレー、カツカレーうどんなどといたできてきて、今年は何にしようかと楽しみに

考えていた正月一日。福岡市の隣町にある実家に帰りますと、84歳になる母親が「尾頭つきよ」と言って、出汁をとった「あご」、飛魚の干したものを丸々一尾のせた雑煮を出してくれました。お椀の中央で、実に存在感のあるそのあごの姿のあまりのめでたさに、私は「これだ!」と思い、今年の験担ぎはトンカツにこだわらず、「このあごを超えるものはないだろう!」という気持ちで、加えて60歳を過ぎた私に、いつまでもかけてくれる母親の愛情も感じながら、さらに飛魚は時に時速60キロで200メートルほどの距離を飛ぶということですから、ぜひ課題や壁を乗り越えて、飛び越えていただきたい、いきたいと思いながら、その雑煮をおいしくいただきました。

皆さんの夢や目標、そしてこの3年間の高校生活が問われるセンター試験ですから、多くの生徒が、高くて厚い壁がいよいよ目の前に迫ってきたと感じていることと思います。しかし、全国53万人の志願者とともに、まさに自分の力で自分の道を切り開くべく挑むのがセンター試験に違いありません。この年末年始ばかりは正月気分も味わうことなく過ごしたであろう3年生の皆さんが、強い気持ちを持って、まずはセンター試験に挑んでくれるであろうと期待しています。



2年生、1年生にとっても、この3学期は1年間のまとめの3か月であり、次の学年に向けての、いわゆる「0学期」として、力を蓄えるための重要な3か月に当たります。3か月というのは、あることを目標に持って取り組めば、成果が目に見えてくる期間だと言われますので、このあつという間に過ぎるであろう3か月という期間を、自分の成長のために、ぜひ生かしてほしいと期待しています。

2008年北京オリンピック、陸上競技のメダリスト 末續 慎吾 さんが「時代に逆行しているかもしれないが、究極的にものを言うのは気合と根性だ。機械は持ち得ない、人間だけが備える力。」とおっしゃっています。もちろん気合と根性をもって日々どのようなことに向き合うのか、何をやるのかということが大切であることは言うまでもありません。「これくらいでい



いだろう」というところを超える努力を重ねて到達した所からは、見える風景が違います。達成感、満足感、そして日々の充実感が違います。欲がないのは良くはない。貪欲にいきましょう！

これまで継続的に取り組んでいても、うまく成果に繋がっていないのではないかと感じる生徒は、やり方を見直す必要があります。あるいは、今のまま継続してこそ、どこかで成果が出るのかもしれませんが。そこはぜひ先生方に相談して、自分の“成長戦略”を見直してください。“自己流”は実に危険です。わがままな私は、40歳ころから全くの自己流でマラソンを始め、とうとう一昨年、59歳で腰の手術をし、もうフルマラソンが走れないのではないかと体になってしまいました。

今年もやっぱり、「飛び出せ、青春！」

12月8日（日）

第13回みやま市駅伝大会にて

そこで、フルマラソンを走れない私が今なすべきことは一つ。この山門高校を選び、山門の同窓生になることを決心して入学した生徒の皆さん方に、この山門高校に

ついて良い話題で語られる中にいてもらうこと。皆さんの心の中で、生涯にわたって山門高校が光り輝いているように、誇らしい学校であり続けるように一歩でも山門を前進させることです。

昨年は亥年でしたし、年男でもありましたので、私も“猪突猛進”、いや、腰が悪いので猪突邁進くらいでしょうか、そのような気持ちで仕事に向かいました。さらに続けてと、先ほど話しました飛魚のようにと意識しないわけではありませんが、今年は子年で十二支の初めに戻りました。これにあやかり初心に戻る、原点に戻る、そして simple に物事を考えていく。山門高校という山を動かすのですけれども、まずは1ミリずつ、ページを1枚1枚めくるように、そして動きが1ミリであることに焦ることなく、先生方、生徒の皆さんとチーム一丸となって動いていきたいと心を新たにしています。

最後に、今年最初のまとめにならないまとめです。

♪ *What a Wonderful World* ♪

青々とした木々に、真っ赤なバラ

自然はボクらのために美しい花を咲かせてくれる

それを見て、しみじみ思うんだ

「なんてステキな世界なんだろう」

抜けるように青い空、そこに浮かぶ真っ白な雲

光が昼間を祝福し、闇は夜を神聖なものにしてくれる

それを見て、ボクは思うんだ

「なんてステキな世界なんだろう」

空にかかる虹の色はあまりにキレイで

行き交う人たちの表情まで輝かせてくれる

友達同士が握手して「調子はどう？」って挨拶するのは

実は「大好きだよ」という意味なのさ

どこかで赤ん坊が泣いている

子供たちはどんどん成長していく

きっとボクなんかよりずっと多くのことを学んでいくんだろうな

そして、心の中でこう思うんだ
「なんてステキな世界なんだろう」

それでは、間近に迫ったセンター試験の結果はもちろん、進路実現と卒業式での3年生の門出の姿を楽しみに、あとを引き継ぐ2年生、1年生の大いなる成長の姿を楽しみにして、第3学期始業式の式辞とします。インフルエンザなど寄せ付けないよう、エネルギーにいきましょう！終わります。